

日常生活機能評価が4点以上改善した重症患者の割合

重症度の高い患者様に対して効果的なリハビリテーションを提供し、結果として患者様の日常生活機能がどれほど改善されたかを示す指標です。当院では回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定しているため、30%以上であることが求められます。

【当院の活動】

1日3時間の理学・作業・言語聴覚療法に加えて、病棟訓練として看護師・介護士の介助による歩行訓練や着替え、食事、歯磨きなど日常生活動作へ積極的に関わりを持っております。また、発症後早期にリハビリを開始するため生活の質が改善し自立度が高くなっております。

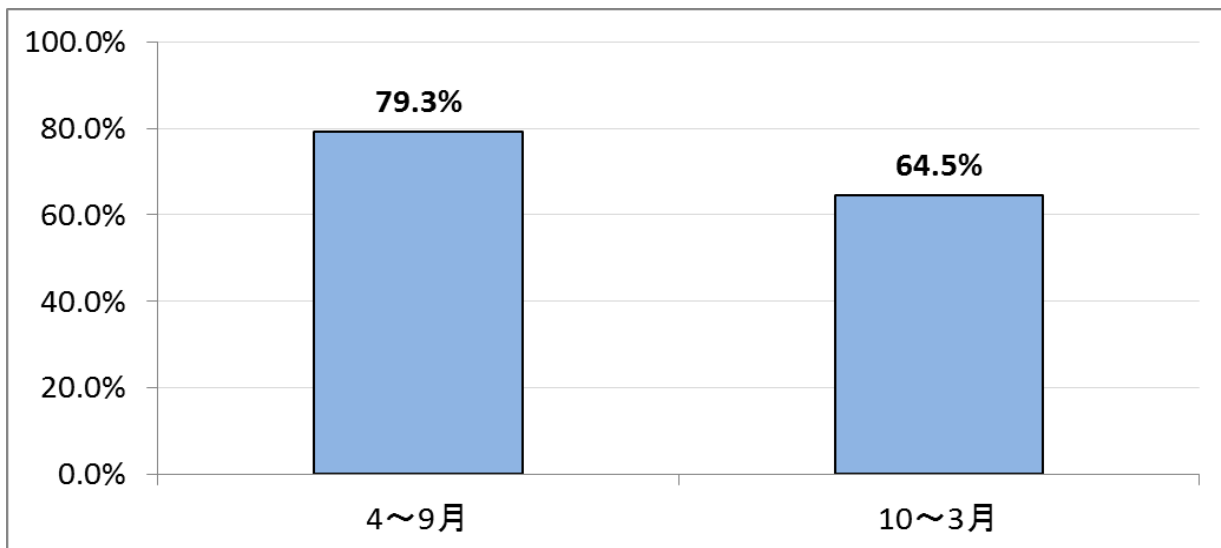
対象病棟：回復期病棟

計算式：
$$\frac{\text{分子） 退院時の日常生活機能評価が、入院時に比較して4点以上改善していた患者数}}{\text{分母） 入院時の日常生活機能評価が10点以上であった患者数}}$$

対象期間：6ヵ月

データ件数：

	2022年度	
	4～9月	10～3月
分子	23	20
分母	29	31
割合(%)	79.3%	64.5%



●年度別比較

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
分子	69	65	75	63	64	55	43
分母	87	90	92	73	77	69	60
割合(%)	79.3%	72.2%	81.5%	86.3%	83.1%	79.7%	71.7%

